

あとがき

「ひつじ科学ブックス『免疫学はおもしろい』（羊土社、一九九七年）や『免疫学はやっばりおもしろい』（羊土社、二〇〇八年）で目指したのは、口語体の免疫学」でした。今では多くの免疫現象が分子細胞生物学の言葉で語られるようになり、免疫学は昔に比べて理解しやすくなったと感じています。このようななか、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり、改めて伝染病・感染症やそれと戦う免疫に対する関心が大きくなっています。ワクチンの原理を築いた免疫学はこれからも基礎生物学として重要であると同時に、実学としても重要であり続けると思います。皆さんに免疫のしくみを理解していただき、興味をもつていただくことが本書の大きな目的でしたが、成功したかどうかはわかりません。多くの若い人がまだ解かれていない免疫の問題に興味をもってチャレンジしてくれることを心から祈って筆を置きます。

二〇二二年八月

小安重夫